令和４年度（2022 年度）　学校評価報告書

学校園名	宝塚市立　仁川　幼稚園	校園長名	上木　美佳

1　学校教育目標

心豊かに　たくましく生きる子
①元気に遊び、思いやりのある子　②あきらめずにやりぬく子　③自分で考えて行動する子

2　重点目標

- 主体的に考え、活動する幼児の育成に努める。
- 豊かな感性を育み創造力、思考力、道徳性の芽生えを培う。
- 「こころと心のふれあい」を大切にし、健康で安全な生活に必要な基本的生活習慣と態度の育成に努める。
- 学校や家庭、地域・保育所及び小中学校との連携を密にし、相互理解を深める。

3　学校自己評価結果（A　優れている　B　良い　C　おおむね良好　D　要改善）

領域	評価の観点及び評価項目		達成状況	学校の取組状況・改善の方策	4 評価項目ごとの学校関係者評価
学校運営	開かれた幼稚園づくり	情報発信 園庭開放 保護者の保育参加	A	ホームページは、ほぼ毎日更新できた。保護者説明会は２学期に実施。園庭開放も定着してきた。	今後は表情がよく分かる写真はコドモンで、個人が特定されない写真をホームページでなど、個人情報を保護しながら情報発信を継続していくことが大切。感染対策と日々の教育活動の両立は難しかったと思うが、地域と連携しながら必要な経験は継続できたのではないか。遠足等については、意味のある活動だったが、事前の説明が必要だったのではないか。
	衛生安全管理体制整備	施錠・不審者対応 安全点検・衛生管理 プライバシーの保護	B	感染対策と共に、行事を見直したことで、保護者参観の機会を確保できた。避難訓練は計画通り実施できた。ホームページでの写真の選定については課題である。	
	子育て支援の推進	預かり保育の充実 相談の充実 学びの場の提供	A	預かり保育は行事等に関係なくできるだけ実施した。ＰＴＡと協力して「ふれあい学級」を実施。座談会は、保護者同士のつながりの場となった。	２歳児保育「プチいちご」や園庭開放で保護者同士・子ども同士がつながる場があることは大事。支援が必要な子どもや保護者も孤立しないような雰囲気を継続すること。
	教職員の資質向上	落着いた学級経営 保護者との連携	B	公開保育及びＩＣＴ導入の準備体制を図る研修を強化。近隣保育園や小学校教諭との懇談会による保幼小の連携について研修を行った。	ＩＣＴ機器を活用した保育や異年齢での活動による子どもの心の育ちは評価できる。ウエル保育園との研究交流により、地域の小学校との連携も強化してほしい。
教育課程	幼児期にふさわしい生活の工夫	主体的に遊ぶ創造的な保育の充実	A	幼児の興味関心に沿った遊びを重視。幼児の主体性が発揮された、また、学級の枠組みを超えた異年齢の交流による学び合いや、意欲・思いやりの心の育成については成果が見られた。科学性の芽生えを培うソニー教育論文を執筆。奨励賞を受賞した。	園庭の自然環境を見直すと共に、弁天池や甲山等の自然とのかかわりを重視した四季折々の保育は評価できる。また、異年齢での日常的なかかわりによって、思いやりや憧れの気持ちが育っている。５歳児の竹馬やこま回しの取り組みは、園の文化になってきている。継承してほしい。 また、ＩＣＴ機器での振り返りや遊びの発表場面で、子どもが自身の言葉でプレゼンする取り組みは今後も継続してほしい。写真や映像を用いて、遊びを知らない保護者にも自分の思いを語る経験をさせてはどうか。
	基本的生活習慣の育成及び道徳性の芽生えの育成	生活習慣の確立 発達に応じた道徳性の芽生えの育成	B	自分でできる事は自分でしようとする自立的な態度が見られるようになっている。困ったことがあっても、仲間と助け合い、乗り越えようとする気持ちの育ちも見られる。	
	校種間連携	近隣保育所・小学校との交流	A	ウエル保育園・さくらんぼ保育園との交流を継続している。ウエル保育園と一緒に光明小学校の特別活動（非認知能力の育成）とのつながりを模索した。	仁川小学校６年生との交流や、プレ１年生での交流は意義深い。ウエル保育園との連携は今後も継続し、交流を通して互いの子ども育ちにつないでほしい。
課題教育	人権教育の推進	幼児期にふさわしい人権意識の育成	B	異年齢交流を通して、「誰かのために」と行動できるようになってきている。自立と共に支え合う関係性が広がるよう、課題意識をもって取り組みたい。	子どもには、困っている友達に声を掛けられる、あいさつができるなど、自分の中の枠組みをつくらずに、心を開いて人と関われるようになってほしい。「あいさつ」については、家庭とも連携すること。

	特別支援教育の充実	配慮を要する幼児を核にした学級経営	B	関係機関との連携を強化。長期的な見通しの中で、一人一人が得意な遊びや興味があることを中心に遊びを創造。他児との良好な関係性が気付けるように保育を工夫した。	自由な発想やアイデアを否定しないで保育に取り入れていけるのは幼児期ならでは。一人一人の自由な発想が活かされることが大事。人の考えを否定しない、互いに尊重し合う関係性を大切にしてほしい。
独自項目	未就園児の居場所づくり	遊びの広場の充実	A	副園長を中心に、「プチいちご」学級を週１回のペースで行った。子ども同士のつながりと共に、保護者同士のつながりが深まった。	「プチいちご」や「おひさまタイム」など、未就園児親子の自由な居場所となっていると感じる。今後も、在園児・未就園児がかかわり合って共に育ち合う環境であってほしい。
	地域との連携	まちづくり協議会等地域組織との連携	B	今年度も、「とんど」「校区人権」「ハイキング」「凧あげ」等、コロナ禍で、も実施できた活動は多く、ＰＴＡの協力を得て、子どもの体験が広がっている。「仁川っ子太鼓」は、継続的な取り組みとして定着しつつある。	和太鼓・ハイキング・お花屋さんなど、地域のいろいろな人とのかかわりで子どもは育つ。幼稚園がつなぐ役割をすると共に、保護者も積極的に地域にでかけ、子どもが地域の人とつながる機会を大切にしてほしい。